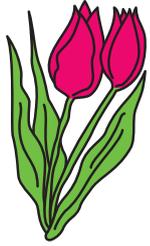


足立区青少年委員会だより



区の花：チューリップ

あだち

第75号

令和5年9月27日

編集発行

足立区青少年委員会

広報部

足立区教育委員会

青少年課



<http://adachi-seishounen.jp>

足立区青少年委員制度発足70周年記念宿泊研修会



伝承鎮魂記念館・慰霊碑



J-VILLAGEにて



語り部の五十嵐ひで子さんと



立谷相馬市長の講演

6月から各ブロックで「教育懇談会」が開催され、13ある全てのブロックが対面にて実施することができました。参加いただいた各校の校長先生やPTA会長から学校の様子を伺い、コロナ禍後の課題も多くあり青少年委員としてサポートの必要性をあらためて考えさせられました。

令和6年2月18日の足立区青少年委員制度発足70周年記念式典・祝賀会に向け準備を進めております。引き続きご支援ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

また、研修会は6月24・25日で宿泊研修会を実施しました。福島県相馬市に行き東日本大震災の復興の様子を視察し、立谷相馬市長の震災直後の災害対応、復興への取り組みについて講話を聴くことができ、当時の大変さが心に残りました。

新型コロナウイルス感染症が5月8日に5類感染症になり、青少年委員会も専門部の活動も動き出しました。事業部は、青少年健全育成団体親睦ソフトボール大会を6月4日に実施しました。親睦会では4年ぶりのコミュニケーションが取れ意義のある一日でした。



足立区青少年委員会会長

多島 三好

活動

子どもたちの未来のために



足立区教育委員会青少年課長
物江耕一朗

4月より青少年課長に着任しました物江でございます。青少年委員の皆さまには足立区の子供たちの健全育成に多大なるご尽力をいただきまして誠にありがとうございます。また、今年は青少年委員制度発足70周年とお聞きしています。ここまで長きに渡り綿々と受け継がれてきた学校・地域・家庭をつなぐ青少年委員のコーディネート力は足立区の子供たちにとって必要不可欠なものです。人は一人では生きていきません。多様な人が係わりあうことで社会が成り立っています。子供たちがこれから成長し、社会に大きく羽ばたいていくためには私たち大人の温かい見守りの目が必要とされています。新型コロナウイルス感染症でこの3年間、我々だけでなく皆さま方も子供たちのためにやりたくてもやりたいことができなかつたことが多くあり、もどかしさを感じていたことだと思います。今年、新型コロナウイルス感染症も5類に移行となりました。この70周年という節目の年を一つのきっかけに、今まで以上に子供たちの未来のため共に力を尽くしていければと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

ブロック教育懇談会

生きやすさにつながる配慮とは

第2ブロック 橋本博子

6月27日、江南住区センターにて、校長、副校長、開かれた学校づくり協議会会長、PTA会長、副会長の方々が出席し、ペアレント・メンターあだちより「生きやすさにつながる配慮とは」をテーマに、講師をお招きしての教育懇談会を4年ぶりに開催することができました。

A D H D、発達障害の生きづらさを持った子供たちは、誰にでもふううに見られる困り感が多くあります。わかること、できること、苦手、できないことの差がはげしく、これらは本人の努力不足ではありません。親のしつけの問題でもありません。脳の機能障害です。

困り感として、「頑張ってもできない」「わかってもらえない」「自分でもわからない」「説明できないし、説明の必要性を感じない」等があります。そして、本人の努力では解決できない原因をそのままにしてし

まうことが多く、二次障がいの表出（うつ、パーソナリティ障がい、統合失調症、強迫性障がい、解離性障がいなど）につながってしまっています。もしも、身近に気になる子がいたら、心にワンクッション（見えていない困り感：かもしれない）を持つて接してほしいそうです。

様々な子供の困りごと、行動、様子を例にあげ、とてもわかりやすく講演していただきました。親の立場として共感と共に理解が深まり、もつと話が聞きたいと思うほどの有意義な講演会でした。

地域の架け橋

青少年委員の役割・活動

第9ブロック 生井由美

6月30日、花畑第一小学校体育館にて、各校の校長、副校長、開かれた学校づくり協議会会長、PTAから2名ずつ参加していただき、総勢60名での教育懇談会を開催することができました。

まず、今年度のテーマに沿って、青少年課の物江課長に講話をいただきました。今年度70周年をむかえる青少年委員制度の歴史や位置づけ、職務や活動について、参加者に分かりやすく説明していただきました。次の「足立区の子どもを取り巻く現状」については、貧困の連鎖な

どの課題や、この8年間の取り組みの成果など、具体的な内容を知ることができました。そして、これらの若年者支援の進め方で、予防的側面と治療的側面の両方からのアプローチとして、



- ・子どもたちの声を聞いて！
- ・情報を届ける工夫
- ・経験、体験に参加しやすい工夫

これらが、貧困の連鎖を断つために私たちができると提示していただきました。

その後、9ブロックの活動や個人活動の紹介をスクリーンに映しながら行いました。より連携の必要性を認識することができたのではないかと思います。

最後には、各校の参加者から「学校自慢」を含めた取り組みについてお話をいただきました。今年度は、全員の顔が見える配置（円形）にしたこともあり、終始、和やかに会を進めることができました。これからも、関係機関と情報交換しながら活動していくことを再確認する貴重な時間となりました。

70周年記念宿泊研修会から

広報部 木島 俊江

梅雨の晴れ間の6月24日の朝8時に相馬に向けて出発しました。

バスの車内にて「災害時の対処の仕方」のDVD視聴から研修が始まりました。

最初にJ・VILLAGE（サツカーナショナルトレーニングセンター）に立ち寄りました。震災後営業を休止していましたが、2019年4月に全面再開し、東京オリンピック聖火リレーグランドスタート地となるなど、スポーツを通じて地域振興に貢献しています。

続いて原子力災害伝承館では、展示物や講話を通し、原子力発電所事故の様子、そして復興に挑戦する福島県の姿を知ることができました。

次に震災遺構の浪江町立請戸小学校に向かいました。海から約300mの場所にあり、校舎1階の腐敗の状態は津波の凄さを物語っていました。校長先生の判断で児童、教職員が裏の大平山まで歩いて避難し、全員助かったと聞きました。学校の裏に立ち、大平山を見ましたが、あまりにも遠く感じ、恐怖の中避難する子供たちの気持ちを考えると涙が溢れ、その場に立ち尽くしてしまいました。

翌25日は最初に伝承鎮魂祈念館に立ち寄りました。慰霊碑に皆で祈りを捧げた後、語り部の五十嵐ひで子さんより、震災時と津波の様子についての話を伺いました。手をつないでいたご主人が津波にもまれ、手が離れ流されていく様子や最後の叫び声等の話はその時の情景が目に浮かび、涙を隠せませんでした。最後に「助かったら何かしたい」と語り部を引き受けたこと、そして、「私たちの命は自分で守る」との言葉が心に響きました。



請戸小学校内部の様子

研修最後は千客万来館にて、相馬市長に復興の様子についての講演がありました。

また、青少年委員会からは青少年健全育成会事業に対する支援金を贈呈しました。

震災にて保護者を亡くした子供たちの教育資金として、お使いいただけるとのことでした。

参加をして、改めて自然災害の怖さを認識する一方で、復興に向けての力強さを感じることであった研修会でした。

リーダーシップと復興

副会長 大西 り子

研修2日目、千客万来館にて立谷秀清相馬市長に「足立区からの支援に感謝〜東日本大震災〜」と題して講演をしていただきました。冒頭「足立区には大変お世話になりました。足立区で何かあれば駆け付けます。自治体としての義理人情は災害対応の面でも大事です」との言葉がありました。

市長は現在6期目。東日本大震災時の市長で地震発生9分後には各消防団に家屋倒壊による負傷者の確認、市民の高台への避難誘導を指示し、津波被災人口約5400人のうち9割以上の命が救われました。ただ、多くの市民を助けた消防団員10名が殉職したことはあまりにも辛く忘れてはならないことだと語りました。

ガタガタの庁舎の中で「次の死者を出さない」と市長は翌日には仮設住宅の建設、避難者の健康管理や孤獨死対策、生活再建策などの行動方針を決定。全職員に情報共有、周知徹底をし、市は一丸となって復興に取り組んでいきました。また、子供たちの心のケアや「子どもの教育こそ最大の地域振興策」と、東京大学と提携して学習支援を行うなど学力向上にも努めました。

更にメルマガを発信し世界中から寄付を募り、殉職した消防団員の子供たちを含め、震災遺児、孤児に親が生きていればしたであろう進学費の全額支給などを行いました。



立谷相馬市長の講演

民に寄り添った復興策。それに応え支える人たち。「リーダーシップ」の重要性を考えさせられたとても有意義な講演会でした。

講演の後、子供たちの健全育成に、と支援金を贈呈しました。後日、相馬市HPにこの日のことが掲載されました。市長からは丁寧なお礼状もいただきました。相馬の皆さまありがとうございました。



請戸小学校にて

研修部の活動

研修部長 高橋 将郎

今年6月に「被災地応援・相馬視察」と題した宿泊研修を参加者37名で実施することができました。1日目は原子力災害伝承館や津波の爪痕が残る浪江町立請戸小学校震災遺構を見学しました。沿岸部に位置する当小学校は、教員や生徒の迅速な避難行動によって、奇跡的に犠牲者を出さなかったとして知られています。

2日目の相馬市伝承鎮魂祈念館での語り部の方のお話は、津波で家族を失った方の体験談や、被災の1シーンを想起させる深い内容でした。加えて、相馬市長の講話では、如何にして災害復興を進め、家族を失った子供たちの未来に責任を持つのか、その意志を強く感じました。この貴重な経験も活かし、今後も内容のある活動となるよう研修部一丸となり取り組んでまいります。

*平成19年5月福島県相馬市と災害時相互応援協定締結

事業部の活動

事業部長 渡邊 淳子

事業部では、「年中行事・記念日を大切にしましょう」という足立区青少年委員会の取り組みのもと、年4回（端午の節句・七夕・お月見・お雛様）区役所アトリウムにて飾り付け、ポスターを作成し区立こども園・小中学校への配布を行っております。

また、毎年6月に開催の「青少年健全育成団体親睦ソフトボール大会」の運営を行っております。コロナも5類になり、6月4日に4年ぶりの開催となりました。選手の皆さま、応援の皆さまと大いに盛り上がり、準優勝という成績を収めることができました。

現在、10月に開催される「あだち区民まつり」でのイベント（ミニSL・一円玉アート・ウォーターコイン）で各青少年委員が参加、活躍できるよう準備を進めているところです。今年度も「元気で明るく楽しく」をモットーに、事業部一丸となって活動に取り組んでいきたいと思っております。



青少年委員会チーム



開会式 選手宣誓



嶋田新キャプテン

足立区青少年委員制度発足70周年記念事業

青少年健全育成団体親睦ソフトボール大会を終えて

コロナ禍により4年ぶりの大会開催。台風で開催が危ぶまれましたが当日は晴天に恵まれました、渡邊事業部長掛け声のもと行ってきた練習・作戦会議の成果により、決勝戦に駒を進めることができました。青少年委員制度発足70周年の節目、優勝は71年目に譲ることとなりましたが、大会運営、練習、試合を通しての委員同士のコミュニケーション、そして応援席からの大きな声援は70周年に大きな輪を形成するものとなりました。「70周年バンザイ!!」

優勝 少年団体連合協議会

準優勝 青少年委員会

第3位 スポーツ推進委員会

編集後記

広報部副部長 大原 恵子

日常を取り戻しつつある昨今、青少年委員となつてはじめて宿泊研修に参加しました。今まで日帰りで研修には参加し様々なことを学んできましたが、宿泊という経験は、委員同士のコミュニケーションにつながり、何ものにも代え難いということを感じました。

小中学生の移動教室や、修学旅行も制限されていた約3年間を経て、以前のような日常生活を送れることに感謝し、また様々なトピックスがある贅沢な悩みが今後も続く、そんなあたりまえを大事にしていきたいと思っております。

これからも「青少年委員会だより」やホームページを通して青少年委員会の活動を発信していきます。どうぞよろしく願いいたします。

新任委員紹介（令和5年度より）



島根小学校担当
第4ブロック
大森 章正



栗原北小学校担当
第11ブロック
鈴島 健司